

(学校番号45) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮南小学校】

4月28日		
目標・策		
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・理解」において、全国平均を上回る。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、反復練習を行う。計算ドリルや漢字ドリルなどを繰り返し取り組む。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回る。	⇒ Teamsの課題機能を活用し、課題に取り組み、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行い、各教科の見方・考え方を身につける。また、自分で考える時間や友達と話し合う時間を確保する。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において、「国語・算数・社会・理科が好き」という児童の割合を85%以上にする。	⇒ 国語・算数・社会・理科において教科担任制を取り入れ、専門性を生かした授業を行う。振り返りを行う時間をとる。

9月28日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	変更なし	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、反復練習を行う。計算ドリルや漢字ドリルなどを繰り返し取り組む。また、自主的に反復練習できるような授業内容の工夫や家庭学習の工夫を行う
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において、全国平均を上回る。	⇒ Teamsの機能をさらに活用し、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」に基づき、協働的な学習に取り組むことができ利用する。授業は、自分で考え表現できる時間を十分に確保した展開にしている。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 「国語・算数・社会・理科」において教科担任制を取り入れ、専門性を生かした授業を行う。授業改善に取り組み、1単位授業または単元終了時に振り返りを行い、授業改善に生かす。

8月26日	
全国学力・学習状況調査結果	国語：75-65.6=+9.4 算数：72-63.2=+8.8 理科：69-63.3=+5.7
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、全国の平均を上回ることができた。</li> <li>・昨年度の実施結果と比べると、昨年度は知識及び技能が全国平均と同じであったが、今年度は大きく上回った。</li> <li>・思考力、判断力、表現力については、すべてにおいて全国平均を上回ったが、昨年度実施結果同様「書くこと」に課題が残った。</li> </ul> <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に、全国の平均を大きく上回ることができた。</li> <li>・昨年度の実施結果と比べると、思考・判断・表現について、昨年度の全国平均比率が+8と大きく上昇した。</li> <li>・全国平均と比較すると、「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の方が上昇率が高い。</li> </ul> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「粒子」の区分で全国平均を大きく上回ることができたが、「エネルギー」の区分は微増であった。</li> <li>・全国平均と比較すると、「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の方が上昇率が高かった。</li> <li>・「理科の勉強が好きだ」との項目で、平成30年度の調査より5ポイント低かった。</li> </ul>	

2月17日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	【国語】・すべての項目で市の平均を大きく上回った。 【算数】・数と計算においては市の平均を大きく上回り、その他の項目でも市の平均を上回った。 【生活週間等に関する調査】・市の平均とほぼ同等であった。	小4	【国語】 ・言葉の特徴や使い方に關する事項、話すこと聞くこと、読むことこの3領域が市の平均より上回っていた。 ・言語文化に関する事項に置いて市の平均より大きく下回っていた。また、書くことにおいても市の平均より下回っていた。 【算数】・すべての項目において、市の平均よりも上回っていた。 【生活週間等に関する調査】・市の平均とほぼ同等であった。
小5	【国語、算数、社会、理科】 ・数と計算におけるすべての領域において、市の平均を大きく上回っていた。 【生活習慣等に関する調査】 ・「朝食を食べている」「家で自分で計画を立てて勉強している」「家の人と学校での出来事について話している」との項目で、市の平均より肯定的な回答をしていた。	小6	【国語】・すべての領域において、市の平均を上回っていた。特に情報を使い方に關する領域と話すこと聞くことについては、市の平均を大きく上回っていた。 【算数】・数と計算の領域で市の平均を上回っていたが、それ以外の3領域で市の平均を下回ってしまった。特に、データの活用領域では、市の平均を大きく下回ってしまった。 【社会】・3領域すべてで、市の平均を上回ってしまった。特に地域環境の生活と歴史の領域で市の平均を大きく下回ってしまった。 【理科】・生命を柱とする領域で市の平均を上回ったが、その他の領域では、市の平均を下回ってしまった。特に地球を柱とした領域では市の平均を大きく下回ってしまった。 【生活習慣等に関する調査】 ・「自分で計画を立ててやっている」「学校のことを家で話している」の項目で、肯定的な回答が市の平均より低かった。

2月21日		評価(※)	
成果指標に対する達成状況			
知識・技能	「スタディサプリ」等のICT機器を使用し、徹底した反復練習を行った。また、計算ドリルや漢字ドリルなど、家庭での学習や、授業中の習得する時間に繰り返し取り組んだ。その結果、全国学力学習状況調査において、国語・算数・理科の「知識・理解」全国平均を上回ることができた。	A	
思考・判断・表現	各教科において、見方・考え方を働かせて主体的に取り組む授業の改善を行った。また、自分で考える時間や友達と話し合う時間を確保し、協働的な学習に取り組んだ。その結果、R4全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」で、全国平均を大きく上回ることができた。	A	
主体的に学習に取り組む態度	高学年において、各教科の教科担任制を実施し、それぞれの専門性を高めた授業に取り組んだ。その結果、「教科(国語・算数)の授業内容はよくわかりますか?」の質問で肯定的な回答が市の平均を上回った。3~5年においては、肯定的な回答が4教科とも市の平均を上回った。しかし、6年の理科と社会においては、「教科が好きですか」の質問に対する肯定的な回答が、市の平均を下回ってしまった。これは、市の学力学習状況調査の学力における調査結果にも反映された。	B	

3月10日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	今年度の取り組みが、おおむね成果を上げることが証明できたので、引き続き知識理解を高めるために、徹底した反復練習の時間を設けるようにしていく。
思考・判断・表現	今年度の取り組みが、おおむね成果を上げることが証明できたので、引き続き、児童の思考・判断・表現を高めるために、協働的な学習ができる授業の改善や個別最適な授業で一人も取り残さない質の高い授業の改善に努めていく。
主体的に学習に取り組む態度	教科担任制の特性である専門性を教師一人ひとりが確実に身に付け、児童に各教科を学ぶ意義が伝わるような授業づくりをするため、教材研究の時間の確保や学校課題研究と併せて取り組む仕組みづくりを行っていく。

※評価  
 A 8割以上(達成)      C 4割以上(あと一歩)  
 B 6割以上(概ね達成)      D 4割未満(不十分)